

第1・6・7地区 地区別実践発表 検討会記録

次第	内容
1 開会 2 発表者・ 運営役員紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・実践提供者 ・運営責任者 ・リモート担当 ・司会 ・検討会記録 ・助言者 ・全体総括
3 実践発表	発表資料参照 第3学年 算数科学習指導案 単元名「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」
休憩	
4 質疑応 答・協議	<p>【発言の種類により、次の印を初めにつけて記載する】 ■→質問 ▲→返答 ●→意見</p> <p>①全体共有の仕方について(全体共有におけるホワイトボード・ロイロノートの使い方等) ・ホワイトボードでは、よく見えないと言っている児童がいた。 ・ロイロノートで考えを共有する方法もあったのではないかな。</p> <p>②ロイロノートの活用と児童のノートとの兼ね合い(ロイロノートを活用することにより、児童のノートに学習の跡を残せない) ・ロイロノートを活用した場合、ノートに何を残せばよいのか、ということが難しい。 ※①と②の内容を含めて、先生方から意見を出していただく。</p> <p>●児童のノートをロイロノート「写真」に取り、テレビ画面で共有。そこに書き込みを入れて、全体共有をする。 高学年になると、自分で写真に撮り、それを提出し、全体共有を図る。テレビ画面で全員の考えを映し出す・画面配信で一人一人の考えをクロームブックで大きく映し出して、共有する。</p> <p>▲(授業者より)ロイロノートで写真を撮った方が、分かりやすいということ、画面配信できる事が分かったので、ホワイトボードよりも活用しやすいと感じた。</p> <p>●全員が自分なりの考えを作ることができるということは、素晴らしい。自分のノートをロイロノートで撮り、それを提出。ノートに考えを書いているので、ノートにも考えが残り、ロイロノートにも残すことができる。1年生でもできるので、全学年でできると思う。</p> <p>▲(授業者より)1年生でも自分のノートを撮影することができるということなので、3年生でもできると思うので、早速使ってみたい。</p>

③授業の終末の振り返り「学んだことをどう生かせるのか」について(適切な声掛け等)

・振り返りに「本時で学んだことや分かったこと」は書くことができるが、「学んだことをどう生かせるのか」ということが、なかなか書くことが出来ない。

※チャット欄に記入してもらおう。(5分)

●書き出しを指定して、振り返りを書かせている。「書き出し」「文末」を指定する。例えば、「今日の勉強で、初めて知ったこと」等、書き出しを指定することで、児童は書きやすくなるようだ。

●「わたがしや」「わ→分かったこと」「た→楽しかったこと」「が→頑張ったこと」「し→知りたいこと」「や→やってみたいこと」として、キーワードで書かせる。

●「架空のキャラクター」に宛てた手紙を書かせる。「算数日記」を書かせる。

「算数忍者」というドジなキャラクターを単元の最初に登場させ、最後にその忍者に手紙を書かせる。→自分の言葉で捉え直しが出来る。

●振り返りを何の目的で書かせるのかが大事。児童で、自分自身がどれくらいできたのか自己評価。自分の指導のあり方がどうだったのか知りたいので、振り返りを書かせたい。今回の授業の振り返りは、よかったのではないだろうか。

●学びを児童の生活場面でどう生かすか考えさせることは、難しい。今回は、「かけ算」なので、「買い物に行ったら、どう生かせる」など、具体的な場面をこちら側から提示する。算数で学んだことを自分自身で生活にどう生かすかということは、難しい。具体的な日常場面を提示して「～なときだったら、どうする？」というように提示するとよいかもかもしれない。

●授業の最初に、前時の振り返りと本時何を学習するかを行う。その上で、授業の際に「この勉強は、前にやったことと似ているね」等、既習事項とのつながりを意識した声掛けをすることで、児童が振り返りのときに「学んだことをどう生かせるか」と考えられるようになると思う。

●筆算の仕方を勉強したなど、何を学んだかを記録するだけでは、どの程度理解したかが把握できないので、筆算の仕方の何を学んだのかを書かせたい。「楽しく勉強できた」「友達の考えを聞いて、分かった」なども振り返りの中にあるとよいだろう。

	<p>●算数の振り返りでは、前時の学習と比較させ、本時に何を学んだのかを明確化するような振り返りをさせる。前時と本時を比べて、新しく何を学んだのかということをしちんと押さえながら、書かせる。</p> <p>●計算の仕方を理解するという本時のねらいに立ち返って書かせる。自分で本時の問題に類似した問題を考えさせる。(作らせる)「確実に 正しく」ということを意識させたい。「数字が変わっている。」「物が変わっている」等。本時は、「お金」であったが、例えば「鉛筆の本数」「液体のかさ(量)」等にしたときに、実際の価値と、数量的な場面とで、どのように量感覚が持てるかということも大事なことはないだろうか。</p>
<p>5 指導助言</p>	<p>○本時の授業から</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題を取り上げることで意欲につながる。 ・全体共有→手を挙げている児童だけの授業ではいけない。 →リレー方式(説明をつないでいく)等を用いて考えを共有する。 →参観者ではなく、参加者にすることが肝要である。 ・ロイロノートの有効的な活用方法→ロイロノートを使うことにより、児童の考えが深まっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードの活用→「見えづらい」ことについては、事前に分かることなので、事前にどのように取り扱うかを決めておく(ホワイトボードをカメラで撮って写すなど)。効果的な活用方法について反省を生かして次に生かしてほしい。 ・「ノートに残す」とは、何のために、何を残すのかを考える必要がある。自分で、振り返るためにノートに蓄積していくのか、ノートでなくても良ければロイロノートを使って蓄積し、担任が評価するために残していく等、必要性を考えて行くと良い。 ・日常に生かす。身近なことにもどる。→指導者が具体的な場면을提示することが大切。 ・振り返り→指導者が何のための振り返りなのか意識して、児童に書かせることが大事。一人一人がこの時間で何を学んだのか、振り返り自分の言葉で書くことが学習の定着につながる。また、次に挑戦したいこと等、次につながるので、今後行ってほしい。 <p>○国立教育施策研究所 教育課程調査官・学力調査官 文部科学省初等中等教育局 教育課程教科調査官 笠井健一 先生の資料より</p> <p>【主体的な学び】</p> <p>児童自らが、問題解決の過程を振り返り、解決したり、新たな問いを見出したりしているかどうか等の「主体的な学び」</p>

【対話的な学び】

数学的な表現を柔軟に用いて、表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで、新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことで、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げてふかめているかどうかという「対話的な学び」

【深い学び】

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見出したり、意味の理解を深めたり概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見出したり、それらと既習の知識と統合したりして思考や態度が変容しているかどうかという「深い学び」

○児童にとって分かりやすい授業に…ユニバーサルデザインの視点から

【視覚化】

授業中、様々なものが児童から見えないということではない。教室内のどこからでも、きちんと見えることが大切。

【焦点化】

本時で、児童に何を教えたいのかということ意識して、明確に提示することが大切。

【共有化】

全員で友達の考えを共有することができるように。友達の考えを自分の言葉で伝えたり、言い換えたりすることができるかどうか。

分かったつもりから、アウトプットすることで、確実な理解につながる。

○目指したい授業の姿

- ・児童があきている→集中して学習に取り組めるように。
- ・「もうやりたくない」→「もっとやりたい」と思えるような授業に。
- ・「やっと終わった」→「もう終わりなの？」と児童が思えるような授業実践を心掛けていきたい。
- ・分かりやすさの追求はシンプルな授業展開につながる。一人も取り残さないように（授業に参加できるように）授業を組み立て、段階的に（児童の実態に合わせて）難しい問題場面にも挑戦させていく。初めクラス全員が分かる問題から始め、時間を追うごとにレベルを上げるような授業展開をすることで児童の意欲も高まっていく。

6 御礼の言葉

7 閉会